

アースデイ湘南

# WALOHA 応援ツアー

## レポート



2011年10月30日、31日

アースデイ湘南実行委員会

琢磨 仁

アースデイ湘南

# WALOHA応援ツアー レポート

実施日：2011年10月30日～31日

主催：アースデイ湘南実行委員会

実施場所：10月30日（日）

南相馬市西町第1仮設住宅（午後2時30分～4時30分）

10月31日（月）

郡山市緑が丘応急仮設住宅（午前10時～12時）

郡山市富田町応急仮設住宅（午後2時30分～4時30分）

参加者：琢磨啓子、琢磨 仁、清田和子、佐竹祥子、岡村博之（実行委員）

佐渡谷紀代恵、家柳佳予子、山口静子、今井俊子、守屋麻美

山崎博子、中村都代美、山内浩三郎(大くに)、杉下由輝(江の島ボウル) 14名

## 経緯

10月に琢磨 仁、啓子が社民党の阿部知子さんの被災地支援ツアーに誘われ南相馬市と福島市を尋ね、音楽で交流。その際南相馬市に行く前に郡山市のビッグパレット内の富岡町おだがいさまセンターにアースデイ湘南で集めたメッセージカードを届けた。担当の吉田晶子さんとアースデイ湘南のWALOHA体験講座の話をした。和菓子体験講座を是非仮設住宅で出来たらという事から今回のWALOHA応援ツアー開催が決まった。実行委員会で話し合い、鎌倉の和菓子屋、大くにの山内さんの日程に合わせ30日、31日にWALOHA応援ツアー開催を決定。スタッフ、サポーターに呼び掛けて14名でのWALOHA応援ツアーとなる。

富岡町の方の仮設は郡山市内にあるため被災地の視察として飯舘村と南相馬市を30日に経由する事に。10月に南相馬市の避難所、原町第2中学校でお会いした南相馬市の職員、星巖さんとコンタクトを取り、南相馬の仮設の慰問も決定。

今回のWALOHA応援ツアーはアースデイ湘南の事業として開催。ガソリン代と洗車代、一部高速代と食事代はアースデイ湘南が負担。高速代は復興従事車両の申請を出し無料に！

## 琢磨 仁 レポート

10月30日午前6時。出発前にボイジャーのバッテリーが上がる。急遽ソーラー発電用のバッテリーを積み替えエンジン始動。バッテリーが若干大きくボンネットがうまく閉まらないが何とか出発出来た。那須で事故渋滞。あだたらSAでの昼食を省きオンタイムで二本松へ。南相馬への道が途中通行止め。ガソリンスタンドで迂回路を教えてもらい無事通過。

飯館村は10月に避難準備区域が解除になったが、線量が高く村は無人状態。田んぼを覆

い尽くしていた身の丈を超える雑草が多く、田んぼで綺麗に伐採されていた。田んぼにかける住民の方の思いが感じられた。しかし人の気配のない町並みは何とも心が痛む光景だ！途中飯館村の村民によるパトロール隊に遭遇。徒歩で家々の様子を見守っていた。



13時30分頃南相馬市に到着後星さんに電話。海岸の津波の被害を視察。1ヶ月で随分片付いていてビックリ。多くの重機が入っていた。

火力発電所の前のビーチで黙祷。綺麗に整備されていたであろうビーチの変わり果てた姿に言葉を失う。激しく壊れた火力発電所の姿に20キロ先の福島第1原子力発電所の姿がダブル。自然の力の凄さを目の当たりにする。

星さんのいる避難所、県営運動公園管理棟に向かう。テントの下に星さんが！1ヶ月前に会った時より何か穏やかな表情。職員の女性と仮設住宅に向かう。岡村さんは

大工仕事で避難所に残り一

人作業。玄関の踏み台製作。



西町第一仮設住宅に着いたのは午後2時半。「遅いから皆んな帰っちゃったよ！」楽しみにして待っていてくれたんだという





嬉しい思いと、遅くなってしまう申し訳ないという思いが交錯。おばちゃんが車で回って声を掛けてくれたので続々と皆さんが集会所へ。テーブルを並べレイメイキングと手作りクッキーのラッピング開始。祥子さんの指導で生花を使ってのレイ作り。山口さん始めスタッフのサポートで可愛くクッキーをラッピング。皆さん笑顔で夢中になって作っていました。

皆さんの嬉しそうな様子を見て星さんが、「今必要な支援はこれなんですよ！物は溢れていてだんだん有

り難みがなくなってくる。皆さんが心から楽しめるプログラムが一番です。」と話してくれた。星さんから南相馬市長からのお礼状とWALOHA応援ツアーの案内用チラシを頂いた。出来上がったばかりのレイを掛けて思わず踊り出す方、本当に嬉しそうでした。ハーフムーンのウクレレで「みんなで歌おう!」、「故郷」では涙涙！世界中の子供達では祥子さんのフラに合わせ皆さんで踊って大盛り上がり。お母さんと一緒に来た女の子は最初緊張気味でしたが花を髪に飾り楽しそうにクッキー作り！帰りに「ありがとうございました」と頭をペコリと下げ丁寧に挨拶してくれました。笑顔が印象的でした。



片付け後運動公園管理棟の避難所に戻ると岡村工務店？作の踏み台が玄関に置かれていた。段差が高いので便利になった。

星さんオススメの「そば専門 和楽」で夕食。二本松へ向かう途中カーナビのミスで道を

間違い浪江町への道へ！原子力発電所の事故によりこの先通行止めの看板が!!慌ててUターン。岡村さんの先導で二本松から郡山へ。ホテルにチェックイン後ロビーに集まりビールを飲みながら一日を振り返る。守屋さんの足マッサージ付き！



10月31日、朝8時45分ホテル出発。  
ビッグパレットへ！

吉田晶子さんと再会。嬉しそうでした。前回会えなかった吉田恵子さんも笑顔でお出迎え。早速ボランティア登録とボランティア保険加入手続き。大くこの山内さんも新幹線で郡山に着き、タクシーでビッグパレットへ。杉下さんも車でビッグパレットに！

手続き終了後杉下さんが江の島ボウリングセンターからの義援金10万円を贈呈。募金は郡山へ行く決めてから一気に増えたそうです。アースデイ湘南からは佐渡谷さん提供のホカロン100個贈呈。皆で希望が丘の仮設に向かう。

緑が丘の仮設は市内からかなりの距離。山道を進むと周りは日本の原風景。谷内六郎の世界が広がっていてとても素晴らしい景色。ただこの先で生活するのは大変なのでは？

小高い丘を切り開いた場所に仮設が立ち並んでいた。早速道具を運び準備開始。岡村さんは集会所入口脇で包丁研ぎ開始。なんと午前中に研いだ包丁は11丁。

天気が回復して青空が！気温も一気に上昇してTシャツで丁度いい程。テーブルを並べるともう皆さん集まって和菓子作り体験講座スタート。山内さんの丁寧な指導であっという間にかわいい和菓子が完成。柿を作る予定がハロウィンだったのでカボチャの和菓子に!! 笑顔の押し印でますます可愛く!!

和室はお茶室に。富岡町のお茶の先生、坂本先生と佐渡谷さん、家柳さんで和気藹々と仕上がって行きます。坂本先生は一時帰宅の時にやっと取り出したお茶碗12脚を持参。佐渡谷さんから着物を着付けてもらい嬉しそう！

清田さん、今井さんのヘアカットも大人気。



和菓子を作り終えた方からお茶席へ。抹茶を堪能したら山口さんの手作りクッキーと入れたてのコーヒーで話が弾む。皆んなで歌おうコーナーは「故郷」で号泣。おだがいさまセンターの吉田晶子さんも帰れない故郷を思い号泣。沖縄県警のお巡りさんが4名訪ねて来てお茶席へ！その後一緒にカチャーシーで大盛り上がり。皆んなで記念撮影をしてお開きに。

片付け後昼食会場の木曾路へ。わっぱ飯を味わって午後の会場の富田町へ向かう。

富田町の仮設は町中にあるので緑が丘よりは暮らし良さそう。

和菓子講座、ヘアカット、お茶席、コーヒーとクッ



キー。全てが大人気。最後は皆んなで歌おうで涙と笑顔が大爆発。



片付け後、名残を惜しんで何名かの方がお見送りに来てくれた。

又の再会を約束して湘南へ。

一人のお婆さんとお話をした。

震災後何もわからず着の身着のまま避難。そこから直ぐにバスで避難の指示。自分の車で行こうとしたら止められやむなくバスへ。最初の避難所は人が

いっぱい入れず、次の避難所も満杯。3カ所目でやっ

と入れた。原発が爆発した事も分からず、何がなんだか分からないまま避難所で過ごす。時間が経ち大阪のお嬢さんを頼って疎開。まわりは地震も原発も関係ないといった雰囲気にならなかつた。故郷の情報が全く入らずストレスがたまる。遠く離れて安心のはずが日に日に気分が落ち込み郡山に戻る。富岡町の仮設に入居したら故郷で顔合わせた方に再会。以前は挨拶程度の方と心からの友人になれた、と話していた。富田町仮設は山が見えるが町も近くとっても居心地がいいとも！買い物は巡回バスが出ているが帰りは荷物が増えるのでいつもタクシーを利用。買い物の度にお金が掛かっていた。一時帰宅の際に自動車を持って来れたのでやっとなつたとの事。

先日のニュースで原子炉の冷温停止は30年後の2041年と言っていた。冷温停止しても線量は安心して暮らせるレベルに戻るとは思えない。富岡町始め、原発周辺の町や村の住民が帰宅出来る日は来るのだろうか？原発から離れた福島県内の多くの土地が汚染され、線量の高い中で暮らさざるを得ない多くの方々。

仮設住宅での暮らしも長引けば長引くだけ色々な問題が出てくる。先の見えない不安、生き甲斐を感じる仕事を失い再就職もままならず、農作業を通しての自然との触れ合いも失い体を動かさない生活。海の側に暮らしていた日々が海がない生活。そして何よりも高い線量による健康への影響。様々な問題が現実となって避難されている方の心を締め付ける。

震災後連日訪れていた報道やボランティアの応援も時間の経過と共に少なくなり、被災者の方はもう忘れ去られてしまったのではという絶望感に包まれる。阪神淡路大震災や、中越地震の時に現地で聞いた声だ。半年を過ぎたあたりからそういう思いが強くなったそう。 「瀕死状態で集中治療室にいる時に大勢が病室で手を取り頑張れ〜と応援してくれ

て、やっと回復してベッドから起きたくて手を借りようと思ったら誰もいない。」何年か後にふと神戸の友人が話してくれた。

被災された方達への支援、応援がどれだけ出来るか分からないが、素晴らしいご縁を頂いた南相馬市と富岡町の方々との結び付きを深め、心と心が繋がっているよというメッセージを送り続けるのがとても大切な事だろう。

日々元気で暮らし、湘南の素晴らしい気を届け続ける事が被災地への支援になると信じて....!

次なる目標は富田町の子供達を家族で湘南に招待して思いっきり海で遊んでもらう事。  
2012年春の実施を目指して!!

分かち合い、助け合い、思いやりとやさしさを！